

平成23年度 富山大学学位記 授与式

同窓会連合会会員祝辞

(ここから読む)

祝辞

晴れて、学部を卒業され、また大学院を修了された2262名の皆さん、本日、ここに学位記を授与されましたこと、誠にめでたく、そして授与式にご参列の皆様をはじめ卒業生諸君を支え励ましてこられた方々とともに、心よりお祝い申し上げる次第です。

卒業生諸君には、この機会に是非、これまでお世話になった方々、とりわけご両親には改めて「ありがとう」と感謝の意を表して頂きたいと思います。それが、諸君の人生の素晴らしい門出につながるものと強く確信しているからであります。

さて、私はコマツ NTC の会長をしております堀井弘之と申します。同窓会を代表致しまして、僭越ではございますが祝辞を述べさせていただきます。

華やいだこのような卒業式では、富山湾で採れるブリや太平洋のマグロの様な「おいしい話」に、そして「天下国家」を論ずる話になりがちですが、今日は、企業の立場から、自分の体験を基に「どじょう」のような多少泥臭い話を申し上げたいと思います。

私は、1970年（昭和45年）3月、当時高岡市中川にありました「工学部機械工学科」を卒業し、南砺市福野で自動車の生産設備を作っておりました中堅工作機械メーカー「トヤマキカイ」、後の「日平トヤマ」で、現在の「コマツ NTC」であります。そこに入社致しました。

学生時代は柔道にのめり込み、近くの高校へもよく出掛けて練習に励みましたが、一方では東大の安田講堂事件にも代表された様に、全国の大学で学園紛争が巻き起こっておりまして、とても学業に専念できる状況ではなく、半年ぐらい休講が続き、又、その結果期末試験もなく、今思えばどうして卒業証書を頂けたのか不思議でなりません。また、外に目を向けますと、正に日本は高度成長時代の幕明けで、途中オイルショック等の激変もありましたが、しかし、右肩上がりで、ちょうど今の中国と同じような状況にありました。この後「JAPAN AS NO1」という本が出版され、自由主義陣営の中で、世界第二位の経済大国にのし上がっていく、ちょうどその頃であります。

その当時は、国立大学から田舎の会社に入るのは珍しく、その分、大事に扱われた訳ですが、人生そんなにすんなりとは行きませんでした。入社後1年間は機械の製造現場でみっちり「物づくり」を教え込まれ、それから大好きな機械設計を経験した後、9年目に「体力」と「やる気」を買われて、アメリカへ駐在する事になりました。私が赴任していた頃

の為替レートは「1ドル180円」ぐらいだったと思います。

たまたまアメリカの自動車会社 **BIG3** の一角、**FORD** 社より大型専用機の受注があり、その設計・据付・アフターフォローなどのスーパーバイザーとして、また一方では英語を学ぶという目的も兼ね、単身赴任いたしました。このあたり迄は確かに会社の中でエリートでありましたが、3年後に帰国し会社に戻ってみると自分の居場所がありません。

社内の事情もあって、与えられた仕事はさして重要性もない、海外からの技術導入の模索や、海外への自社 **PR**。そして、本流とはかけ離れた新規ビジネスの創出。ついには自分で見つけて来た、当時脚光を浴びつつあった「レーザー光線」を利用した工作機械の開発から製造・販売に至るまでをわずか10人余りの手勢で始めよと命ぜられました。その後15年余り、この新規事業を成功させるため、家族も何もかも忘れて、販路を求め全国津々浦々を歩き回りました。

しかし、この逆境の体験こそが、その後の私の会社経営の重要な基盤となった事は言うまでもありません。この事を踏まえて、私は皆さんに次の3つの事を申し上げたいと思います。

まず第一に「企業人」になると、あたりまえの事です。「休日が圧倒的に少なくなり時間の使い方がこれまでと全く違って参ります」また「試験の様な確実な正解を求められるのではなく、ある幅のある自発的な行動に基づいて、物事を解決していく事が求められます」。ここまでは分かりやすいのですが、もう一つ「経済的な自由度は増えるのですが、取り巻く環境にかなりの制約を受ける」ということであります。しからば、その環境による制約とは何か？ですが、それは、「会社を選べても、その仕事の中身、そして上司や同僚は選べない」ということであります。また、上から見ると新入社員の能力はいかなるものかがよく見えないので、学力や適材適所というよりは、学歴で選別されるケースも出てくるということがあります。よく「失敗しても思い切ってやってみろ。七転び八起きだ」と言われますが、そう何回も失敗出来るものでもありません。また、企業は頭が良くて勉強が出来る人を必ずしも必要とはしません。好奇心があり、何かに夢中になれる人こそ、イノベーションの源として必要なのです。

では、どうするか？それは、唯一、『与えられた場で、与えられた事に対し最大限に努力することです。』また『大事を成さんと欲すれば小事おこたらず努むべし』です。

どんなつまらないと思える仕事でも一生懸命やる事によって、いくつもいくつも答えが出てまいりますし、また、それにまつわる周辺の勉強をする事により、様々な財産が蓄積されてくるのです。そして、やがてはそれらがベースになって実を結び、あらゆる機会を捉

えて、ごく自然に頭角を現すことが出来る様になるでしょう。これは、自分の夢を達成するための基本中の基本であると思います。

会社は誰の為にあるのか？従業員の為、お客様の為、株主の為、地域社会の為など、いろいろあると思いますが、最も重要なのは「自分の思いを達成する為にある」と思う位がちょうど良いのだと思います。

二つ目ですが、逆境に遭遇したらどうするか？ということです。皆さんも大なり小なり逆境に遭われることと思いますが、逆境の山が高ければ高い程、その後の人生に大きく貢献してくれるはずです。

先程も少し紹介しましたが、私は30歳半ばから10年余りは、この逆境に身を置いて参りました。「商品開発の失敗」そして、また「景気変動の激流の中、上手く波に乗れず」苦難の連続でした。何より苦しく辛い思いをしたのは、会社の将来を見据えて、何年もかけ必死に取り組み、精魂傾けた新規事業の成果が、トップに全く評価されず、その上、その成果を他人に持っていかれたことです。逆境の波は2度3度と襲っ参りました。

しかし、皆さん、逆境こそが宝の山なのです。「はやぶさ」を回収したJAXAのメンバーの様に、困難に立ち向かうべきです。

私は、この逆境から多くの事を学びました。経営に最も大切な要素、つまり、「人の辛さ苦しみ」が理解出来るようになりました。また、少人数で一つの事業を任されたことにより、開発・製造・営業・サービスまで全ての分野で経営の根幹を学ぶことができました。自慢話になり恐縮ですが、社長就任時、当社の年間売上げは2つだけの事業で300億円位でしたが、8年後の退任時、一昨年の3月末には5つの事業で1,200億円を超える売上げの、そして日本だけでなく世界の自動車産業の発展に貢献した大手工作機械メーカーにまで成長出来ました事は、この逆境時に学んだ多くのことが、大きく貢献した事は云うまでもありません。逆境に立った時、「辞めようなんて思わず、大きなチャンスが来た」と思う位がちょうど良いのではないかと思います。

三つ目は「言語」です。今や世界中がビジネスの場となっております。私の若い頃は貿易が出来る国は数が限られていました。それは、アメリカであり、ソ連であり、はたまたヨーロッパの一部先進国であり、韓国・台湾などで、明らかに国境を意識して仕事をしていました。その後、1990年代に入って、中国・インドの台頭があり、グローバルな世界が到来と言われる様になりました。シンガポールの空港に降り立つと、そこはまさに人種のるつぼで、インド、アフリカ、アラブ、中国・韓国や東南アジア、欧米の人々、

そして日本人が渾然一体となって、全く国境を感じません。今やグローバルな世界から、既に国境のないフラット化された世界に変化してしまったのです。フラット化した社会に必要なのは、やはり言語です。

英語は必須です。そこに中国語が出来れば申し分ありません。英語でビジネスをするという事だけならば、インド人やフィリッピンの方が遙かに卓越しています。このままいくと高額な給料を必要とする日本人はビジネスの社会に不要、とされる世の中が直ぐそこにやって来るかも知れません。しかし、言語はただ話せるだけでは意味がありません。我々日本人が持つ専門的な知識や技術などと融合して初めて生きたものになるのです。英語に関しては、私は幸いにも、逆境時代に学ぶ機会がありましたので、多少喋る事が出来ました。ですから、GMやクライスラーなど、世界の企業のトップ層とも、直接コミュニケーションが取れ、また、商談の後の懇親会でも、通訳を介さないでの意思疎通は、その場を盛り上げるのに大変役に立ったものです。英語での仕事が回って来たら「生きた英語を使える絶好のチャンスが来た。完璧に仕上げてやろう。」と思うくらいが、ちょうど良いのではないかと思います。

以上、3つの事、「企業人になった時の心構え」「逆境に立った時に思う事」「英語の必要性」についてお話し申し上げましたが、皆様のご記憶に留めておいて頂ければ、この上ない喜びであります。

今、誰の目から見ても明らかなように、日本は右肩下がりです。2030年には中国がアメリカを抜いて、GDPでは世界一に、そして、日本はインド・ブラジルに肩を並べられ3位グループになると予測されています。

世界各地で日本製品離れが起きている現在、日本の衰退にストップをかけ、再生に向けて力強く躍動するエネルギーを与えるのは、今日ここに卒業式を迎えられたあなた方です。愚直に地道に徹底的に、そして、誠心誠意活躍して頂ければ、必ずや、日本のそして皆さまの明るい未来に遭遇するものと確信しています。

はばたけ我が同窓生諸君!!

以上 諸君の健康と成功を祈念して、祝辞といたします。

平成24年3月23日

富山大学同窓会連合会 堀井 弘之